

あべともこニュース

非核・平和・生存権を求め、市民の声を！

◆PFAS対策、更なる拡充を！

19日、阿部とも子は、環境委員会で大臣所信とPFAS対策について質問しました。

冒頭、二つの国際環境会議、COP29（気候変動枠組）とCOP16（生物多様性）について、いずれの会議でも市民や若者の参加が設定され、多様な意見が取り入れられていることを紹介。日本も「オーフス条約」という環境政策への市民参画が適う仕組みを導入すべきだと指摘しました。

また相次ぐPFAS汚染、これまでの基地周辺等に加えて、産廃工場由来の新たな汚染とその対策について質しました。現在は、PFOS・PFOA合算で、水質50ng/Lという暫定目標値はあるものの、「水質汚濁防止法」等に基づく排水規制はなく、汚染は垂れ流し状態、土壌への蓄積も懸念されます。

血液検査をはじめ、健康影響調査も含め複合的に更なる対策拡充を求めていきたいと思えます。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県12区（藤沢市・寒川町）
 当選9回、東京大学医学部卒業、
 小児科医、あべともこ子ども
 クリニック（湘南台）理事長
 現在、環境委員会
 原子力問題調査特別委員会委員

あべともこ
 公式X (旧Twitter)
 @abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko

あべともこ事務所
 公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ 検索

◆メデイカル・エバキューエーション

20日、超党派「人道外交議員連盟」ではこの間ガザに4回入られた安藤恒平氏（赤十字国際委員会外科・整形外科医師）から「2024年、ガザでの紛争被災者対応の経験と考察、赤十字国際委員会」と題してご講演いただきました。現地では、ライフラインも破壊されて、医療施設も十分機能できず、WHOからの要請で「メデイカル・エバキューエーション」（患者をガザ域外に避難させ、治療すること）が求められています。

また、総会に先立ち、同日午前中に宮路外務副大臣に、日本政府も医療避難を荷うことやUNRWAや現地支援にあたるNGOへの更なる予算拡充を要請しました。今後は、国会議員へ署名を呼びかけ、即時停戦も含めた働きかけをしていきます。

ガザにおける戦争が勃発して1年以上が経過しましたが、停戦と人道支援に向けて、議連でも政府へ働きかけるとともに、パレスチナの国家承認も求めていきたいと思えます。

◆反核平和—憲法フォーラム

22日、憲法フォーラム「核兵器禁止条約に学ばず私たちにできること」と題し、川崎哲様（核兵器廃絶国際キャンペーン・ICAN）に講演いただきました。

10月11日に「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」がノーベル平和賞を受賞したところですが、世界の非核化はまだまだ進んでいません。「核抑止論はかえって核保有国同士の戦争開始を後押しし、剥き出しの武力」を蔓延っていく状況。だからこそ、国連や国際法がきちんと機能すべきだ」と川崎氏。

「ガザにも原爆を使っても良い」という意見が出るほど世界は核の脅威に曝されていますが、戦争唯一の被ばく国である日本は、来年で原爆投下から80年が経ちます。対談に参加された鈴木藤沢市長とともに、この藤沢から核兵器廃絶に向けて力強く活動していききたい旨、皆さんと思いを共にしました。

